

令和6年度 首都圏進路研修 感想文

コース【1-1】

研修先【東京大学・理工学部】 2年 組 番氏名

今日は私たちのためにあつ時間を使、ていたたきありがとうございしました。まず最初に勉強と研究は全く違うという話をきかしました。私たち学生は日常のほとんどもを答へのある問題に費やし、ほとんども答へのほい問題について考へてきませんでした。個人的にはそんな少ない中で、精神的に追いつめらへていた時期にはニヒリスム的に、どうして生きなければならぬのかという、とらへたあうに考へていました。また、最近では、勉強だけでなく生活習慣（睡眠、食事、運動）にも気を配る自分の人生の幸福を最大化すること考へるようになりしました。そのために、たくさん本を読み、アウトプットしていきまう。物理学科での献職先を、多岐にわたることに驚きました。私たちは物理で $F = ma$ で成り立つ古典力学を習、ていきまうが、大学で習う現代物理の量子力学や統計力学について視野を広げ興味を持つことかてきしました。長谷川先生が専門とせらへている表面物理、ナノスケ

ール物理では、現代ではウィルスの大きさを程
の小さなウィルスのものを扱っていることに驚
きながらも興味を拝しました。ナノテクノロジー
ジーという言葉を取、新聞で目にしました。
そのおかげで、スーパースマイン化できたり、
将来に海を調べるために、がんがどうかが分
かるかもしれないという情報を知り、さらに
興味を拝しました。トポロジカル物質が21世
紀にスーパースマインに使われ、超省エネ化できるとい
う新しい情報を知ることでかき立てられ、たど
す。また、ナノスケールの話で野口英世さん
の黄熱病の菌の話が出てきました。実は彼が
見たのは黄熱病の菌では無い、とに衝撃を
与えました。光学顕微鏡で実際にそれが見る
ことができるようになるなど、人類の進歩は
すさまじいと思いました。また、トレンネル効果
果については、最近現代国語の授業で量子カ
ラの話を聞いてきて、少しリンクしてゆくと
す。今回は本当にありがとうございました。
した。

令和6年度 首都圏進路研修 感想文

コース【 H 】

研修先【 東京大学理学部 】 2年 組 番氏名

先生のお話を通して多くのことを吸収できました。まず、今のうちに自分がまだ興味を見出せていないことにも挑戦すべきだと思いました。やっていくうちに新たな楽しさ、面白さを発見できる可能性があり、それを生かして逃さないようにしないといけないと感じました。また、研究者はとにかく論文を出し続けなければならないとお聞きし、それは研究者に限らず、人生においてもそうであり失敗してしまったときのことも前もって考えておきながら、他の道も見つけておき、またそうするための余裕ももっておかないといけないと考えました。論文をかきながら、自分のしたいことを追いつめていくのが大学の研究者であり、利潤を追求しながら、会社のために研究をするのが会社、企業における研究者であるという違いもわかりました。さらに研究というのは、自分が知りたいものの答えが分からない上、そもそも答えがあるかすら

わからぬものを突きつめていくものだと知り、そのような不安がある中、推し進めていく先に、求めているもの、大発見があるのだと思いました。また、先生はその研究は時間を忘れてしまうようなことにするべきとおっしゃっていました。今のうちから、没頭できることをできるだけ見つけ、同じ話ではありませんが、先のためにもいくつかの選択肢をもっておく必要があると感じました。そして、先生のお話を聞いて、物理に対する見方が変わりました。思っていた以上に生物や化学、数学にもつながっていて、1つで存在する学問ではないと思いました。また、宇宙というマクロな世界から原子というミクロな世界まで幅広く研究されていて、大きな可能性を秘めた学問であると思いました。実生活にも生かされていることもあれば、次の研究につながるようなものもあり、今もなお新たな発見に向かっていると思いました。先生のお話のおかげでたくさん学びがありました。